

緑色で示した部分は、冊子で取り上げている「授業の一例」です。

単元の主な学習活動

第1時

単元全体のめあてを確認し、学習の見通しをもつとともに、自分のできる技を確認する。

- 1 単元全体のめあてや学習の約束、学習の進め方を知る。

単元全体のめあて

友達と協力しながら、いろいろな技に挑戦し、自分で選んだ技を組み合わせで演技をしよう。

学習の進め方を知り、自分のできる技を確認しよう。

- ・友達と協力しながら練習に取り組み、互いに学び合うことを大切にしていけることを知る。
- ・各自のタブレットに配布された単元計画と毎時のめあてや振り返りを記入するスライドの記入の仕方を確認する。
- ・動画遅延アプリや手本動画の使い方を確認する。

- 2 準備運動をする。

- ・通常の準備運動に加えて、手首・足首・首のストレッチを入念に行う。

- 3 自分のできる技を確認したり、試したりする。

- ・回転系や巧技系の基本的な技の行い方を確認する。
- ・これまでに学習した技の中から、自分ができる技を実際に試して確認する。

- 4 本時の振り返りをする。

- ・タブレットのスライドに、本時での気づきや単元の学習でがんばりたいことなどを振り返りとして記入する。
- ・次時の学習内容を知る。



〔学習活動1〕 動画遅延アプリで撮影した動画を電子黒板で表示する。



〔学習活動3〕 前学年までに学習したマット運動の技を確認する。

1 時間目 めあて 学習の進め方を知り、自分のできる技を確認しよう。

自分のめあて	気付いたこと・振り返り
後転をきれいにできるようにする。 (後転をできるようにする。)	前転をきれいにすることは、後頭部をつけること(頭のてっぺんはつけないこと)や、ひざをつけることなどがあると分かった。でも、それができなくて悔しかった。今度のマットの時間は前転をきれいにできるようにしたい。
前転をできるようにする。	

〔学習活動4〕 スライドに振り返りを記入することで、いつでも自分の学びを振り返ることができるようにする。

## 第2時

友達と協力しながら、自分に合った練習の場や方法を選んで、開脚前転や開脚後転に挑戦する。

- 1 準備運動をする。
- 2 前時の学習を振り返り、本時のめあてと活動内容を確認する。

友達と協力しながら、自分に合った方法や場を選んで、上手に技を行うポイントを考えて練習をしよう。

- クラス全体のめあてに加えて、個人のめあてについても確認する。
  - 開脚前転や開脚後転の行い方を確認する。
- 3 上手に技を行うポイントを考えながら、練習を行う。
    - 開脚前転や開脚後転を中心に練習に取り組む。
    - 技のポイントについて気付いたことは、その都度タブレットのスライドに記入したり、ホワイトボード（アドバイスボード）に記入したりする。
  - 4 本時の振り返りをする。
    - 上手に技を行うポイントを中心に振り返りをスライドに記入する。
    - 個人のめあてを確認し、修正をしながら振り返りを行う。
    - 次時の学習内容を知る。



【学習活動3】 練習中に気付いたことは、ホワイトボードに記入し、クラス全体で共有する。

### 2時間目

めあて 友達と協力しながら、自分に合った方法や場で、いろいろな技に挑戦することができる。

自分のめあて	気付いたこと・振り返り
開脚後転で上手に回れるようにする。足を閉じて、勢いよく回ることを意識する。	足を閉じて回るのは意識できたけど、開くタイミングを練習したい。開くときも勢いが大切だと気付いた。

【学習活動4】 スライドに記入した児童の振り返り。

## 第3時

友達と協力しながら、自分に合った練習の場や方法を選んで、跳び前転、伸膝後転、側方倒立回転等に挑戦する。

- 1 準備運動をする。
- 2 前時の学習を振り返り、本時のめあてと活動内容を確認する。

友達と協力しながら、自分に合った方法や場を選んで、上手に技を行うポイントを考えて練習をしよう。

- 個人のめあてについても確認する。
- 跳び前転、伸膝後転、側方倒立回転の行い方を確認する。



【学習活動3】 自分のタイミングで、手本動画を確認したり、スライドに書き込んだりしてよいが、練習時間もしっかり確保できるよう伝える。

- 3 上手に技を行うポイントを考えながら、練習を行う。
  - 跳び前転、伸膝後転、側方倒立回転を中心に練習に取り組む。
  - 技のポイントについて気付いたことは、その都度タブレットのスライドに記入したり、ホワイトボードに記入したりする。
- 4 本時の振り返りをする。
  - 上手に技を行うポイントを中心に、振り返りをスライドに記入する。
  - 個人のめあてを確認し、修正しながら振り返りを行う。
  - 次時の学習内容を知り、自分が練習したい技を選ぶ。

#### 第4時（本時）冊子 p.10 に掲載

もう少しでできそうな技を繰り返し練習して、友達と意見を交流しながら、自分の選んだ技の完成度を高めていく。

- 1 準備運動をする。
- 2 本時のめあてを確認する。

自分で選んだ技の完成度を上げるために、友達と意見を交流しながら練習しよう。

- 前時に設定した個人のめあてについても確認する。
- 前時までの児童の気付きから「よい演技のポイント」をまとめたもの確認する。

- 手や足がきれいに伸びている
- 体が曲がっていない。
- 堂々としている。
- 最初から最後までスムーズ

- 「よい演技のポイント」が友達にアドバイスをする際の視点にもなることを確認する。
- 3 それぞれの課題の技に取り組む。
    - 友達にどこを見てほしいかを伝えてから、技を行う。



僕は、跳び前転に挑戦するよ。手を着く位置に気を付けて練習するから、そこを見ていてね。

- 練習中の気付きは、その都度タブレットのスライドに記入したり、ホワイトボードに記入したりする。



【学習活動2】 本時のめあてを確認したあと、個人のめあても意識させることで、より具体的に授業の見通しをもって学習に取り組むことができる。



【学習活動3】 自分のめあてや気を付けたポイント友達に伝えることで、アドバイスの視点をはっきりとさせることができる。

(練習の様子)



ホワイトボードを見ると、開脚後転は、立つときに手でマットを押すといいて書いてあるよ。

なるほど！うまく立つことができなかったから、試してみよう。



〔学習活動3〕 動画遅延アプリで撮影した動画をモニターで確認する。モニターを見ながら話をするすることで、具体的なアドバイスにつながる。



〔学習活動3〕 自分や友達の気づきを記入したホワイトボードは、気づきの共有だけでなく、対話の場にもなる。

4 グループでミニ発表会をする。

- 練習した技を一つ選んで発表する。
- 「よい演技のポイント」を視点に、友達のよいところを伝え合う。

5 本時の学習を振り返る。

- 自分の選んだ技についての練習の様子や、友達との交流についてを中心に振り返りを記入する。
- 個人のめあてを確認し、修正しながら振り返りを行う。
- 次時の学習内容を知る。

第5時

自分のできる技を組み合わせ、連続技に挑戦する。

- 1 準備運動をする。
- 2 前時の学習を振り返り、本時のめあてと活動内容の確認をする。

自分のできる技を組み合わせ、連続技に挑戦しよう。

- 個人のめあてについても確認する。

3 技と技のつなぎを意識しながら、連続技の練習に取り組む。

- マットをつなげて連続技ができるようにする。



〔学習活動3〕 マットをつなげた練習の場。

- 技と技の組み合わせ方（つなぎ）を工夫する。
- 技のつなぎ方や構成を中心にアドバイスをし合う。

4 本時の学習を振り返る。

- 技のつなぎ方や構成の工夫を中心に振り返りを記入する。
- 次時の学習内容を知る。

第6時

これまで練習してきた技の発表会を行う。

1 準備運動をする。

2 前時までの学習を振り返り、本時のめあてと活動内容の確認をする。

これまでに練習してきた技を組み合わせ、発表会をしよう。

- 個人のめあても確認する。

3 発表会でを行う技を練習する。

- グループ内で互いにタブレットを利用して、撮影し合いながら練習を行う。

4 発表会をする。

5 本時ならびに単元全体の学習を振り返る。

- それぞれの振り返りを共有し、感想等の交流をすることでお互いの学びを認め合う。

※ 単元終了後にも教室等で、お互いの振り返りを読み合い、できるようになった技や、できるようになるまでの頑張りを共有できる時間をもてるよう配慮する。



[学習活動3] タブレットでの撮影の様子。



[学習活動4] 発表会の様子。

## 体育科・保健体育科における評価の考え方

### <評価の重点>

毎時間の指導においては、単元の目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき、目標を設定しますが、全ての児童・生徒に対して、全てのことを指導し評価することは現実的ではありません。三つの柱に留意しながらも、本時において重点的に指導する内容を絞り、設定した評価方法に基づき適切に評価することが大切です。

単元を通して、評価規準の評価内容が網羅できるように、1時間につき、1～2程度の評価の観点にするなど、評価をするに当たり、無理のない計画を立てるようにします。(評価計画の「知」の①は、評価規準の知識・技能の①について評価することを示しています。)

### <評価の進め方>

観点別学習状況の評価は、単元の終末にまとめて行うものとして捉えるものではなく、指導場面に対して評価の機会を検討し設定することが重要です。

各観点对応する適切な評価方法により個々の児童の評価材料を収集し記録に残すとともに、必要な手立てや指導を行い、必要に応じて形成的な評価をしながら、総括的な評価において最終確認し、観点別学習状況の評価を確定していきます。

### <評価後の指導の継続と再評価の重要性>

単元の前半に行う評価については、その結果をもって単元全体の評価とするのではなく、単元後半につなげる指導のための評価という側面を踏まえ、単元終了時まで指導と評価を繰り返すことが重要です。

ある児童・生徒において、単元の前半に評価の機会を設定した項目がBまたはCであったものを、単元の終盤までにAまたはBとなるよう指導の充実を図ることが本来の評価の在り方です。

### (参考)

文部科学省 国立教育政策研究所

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 体育】 (令和2年3月)

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 保健体育】(令和2年3月)

栃木県教育委員会

新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 小学校編  
(令和2年7月)

新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 中学校編  
(令和2年12月)